

10

2024
Vol.519

ひろがれ じんけんネットワーク

三木市人権啓発紙

隣保館だより

R I N P O K A N D A Y O R I



ホームページ URL

<https://www.city.miki.lg.jp/site/sou-gourinpokan/>



茶道教室は、隣保館開館以来40余年にわたって「教養文化講座」として月2回程度、2階和室で開催しています。お茶のたて方（点前）、いただき方、礼（お辞儀）などの作法や、客人をもてなす茶道の精神を杉本先生から教わっています。



「継続は力なり」
四季を楽しむ茶道教室。皆さんどうぞお気軽にご参加ください。



❖ 「隣保館だより」は、市民の皆様にご覧いただき、総合隣保館の活動や人権尊重の生き方のヒントになるような情報をお届けする啓発紙です。

❖ 次ページ「人権の小窓」は、三木市内在住で、パラスポーツ「チエアスキー」の普及活動をされている兵庫県チエアスキー協会事務局、井上英年さんの寄稿と、パラ陸上の中・長距離ランナー、永井秀樹さんへのインタビューです。

人権の小窓(269)

三木市にお住まいで障がい者スポーツの普及活動をされている井上英年さん、パラアスリートとして陸上競技に取り組まれている永井秀樹さんのお二人を紹介します。

チェアスキーに魅せられて

兵庫県チェアスキー協会事務局 井上 英年

三木市内に障がい者スポーツの事務局があるのをご存じですか。私の自宅、志染町青山に「兵庫県チェアスキー協会(HCSA)」の事務局があります。協会は1996年に発足し、県内だけではなく、西日本のチェアスキーの普及発展に努めています。冬季オリンピック・パラリンピックにてスポーツの華とされるスキー。海外で King of Sports とも評され、とても人気のあるスポーツでもあります。

その中で、車いす利用者【チェアスキー】という道具を用いて行う競技アルペンスキーがあります。時々テレビなど、映像として見たことがある方もいるかもしれないですね。私は元チェアスキー競技者であり、事務局である自宅で普及活動を行っています。



健常者と共にアルペンスキー競技をする「icetee cup」大会で前走者を務める筆者。

私達が所属する日本チェアスキー協会(JCSA)には、会員数約120名、各地域にクラブがあり、全国で活動しています。また、数ある障がい者スポーツ(車いすバスケットボール・車いすマラソン等)の中でも、チェアスキーという種目だけが日本の数ある障がい者スポーツの中で唯一創成期から種目に携わり、活動を行ってきたという事実があります。つまり日本が世界の中で車いす利用者のアルペンスキー競技(チェアスキーの世界)を常にリードしてきたと言っても過言ではない状況で、日本の競技力は現在も、世界的に強豪国の一角を支えています。

では、何故三木で活動しているのか?と言いますと、私は19歳の時に交通事故で車いす利用者になり、兵庫県立リハビリテーションセンター中央病院に入院をしていました。その時に、小学生から元タスキーをやっていた関係で、車いす利用者になっても退院後に極寒の白銀の世界にてスキーがしたいと考えていました。皆さんはご存じだと思いますが、じつは兵庫県北部には多くのスキー場があり、とっても活動しやすい環境であり、1998年に長野オリンピック・パラリンピックが日本で開催された結果、チェアスキーヤーでも信州や、東北では普通にスキー場を滑走できる環境が整い、健常者と共に滑ることが可能でした。しかし初めて兵庫県内でチェアスキー講習会を開催した時は、なんとスキー場

筆者紹介 井上英年(いのうえ ひでとし)



兵庫県チェアスキー協会(HCSA)事務局
(公財)日本障害者スキー連盟
元指定強化選手。北米選手権
SGS2位などの成績を残す。

<http://www.eonet.ne.jp/~inoinoino/>

関係者がチェアスキー自体を見たことがない人や知識のない方々がほとんどであり、スキー場から「滑らないで雪遊びをして帰ってほしい」と言われるほど、西日本でチェアスキーヤーとして活動すること自体が、とても厳しい状況があったのも事実です。

そもそも、車いす利用者にとって、厳冬期の冬山という場所は常に困難がつきまとい、不自由が当たり前の環境になります。そんな中、私自身が車いす利用者となり、はじめて雪上に立った時の想いは、今も忘れることができません。ただでさえ不自由になった身である車いす利用者となって、果たして雪上に立てるのか?という素朴な不安を抱きつつ、雪山に向かった先で、現在私が所属する日本チェアスキー協会のスタッフや多くの人の手助けのおかげで、再びゲレンデに戻ることができました。厳冬期の雪山で人の温もりを感じることができるチェアスキーと出会えたこと、雪面を滑った時に健常者のスキーで感じていた滑走感覚が確かに存在しており、体感することができたことで、私の人生が開けたように思いました。「すごい、再びスキーができる。チェアスキーという道具を用いて雪上を自由に滑走する感覚を感じることができる」私はすっかりチェアスキーの素晴らしさに魅せられてしまいました。



チェアスキーでリフトに乗っているところ

それ以来、日本障害者スキー連盟の競技者として6年間、ナショナルチームに所属し、日本の代表としてワールドカップなど数多くの大会に参加。また競技者として求める練習環境を得る為にアメリカ合衆国、コロラド州にあるウィンターパークスキー場にあるスキーチームに所属し、練習を重ねていました。そこは、世界中から練習環境を求めて、それぞれの国の代表選手になれるように切磋琢磨しあう仲間たちと共に練習の日々でした。いつの日か、それぞれの国の代表としてワールドカッ



チェアスキーでアルペン競技(大回転)に参戦中の筆者

プで競うことを誓い、月日を重ねていました。私が、日本代表として初めてワールドカップ参戦した時に数名のウィンターパークチームの仲間たちと再会することとなり、それぞれの国の威信を背負い、アルペン競技に参加したことを今も鮮明に覚えています。

スキーの持つ「楽しさ・喜び・夢」を共に分かち合える仲間たちと、国や言語の違いや肌の色の違いなど障がいの有無に関係なく「一つの Ski」を共有できた喜びを胸に抱き、雪山を大いに楽しみ、盛り上げていこうと兵庫県チェアスキー協会を設立し、事務局を自宅に置いて、現在に至ります。

最近の異常気象等でスキーができる期間が短くなってきていますが、兵庫県内にはスキー場が16か所もあります。この冬は、是非雪山でスキーをしてみませんか？当クラブはホームページもあり、情報発信を行っています。県内行事には、スキー場でチェアスキーヤーを見かけることもある

かもしれません。またチェアスキーに興味があれば一度、協会ホームページをご覧ください。幸いです。

(<http://www.eonet.ne.jp/~inoinoino/>)



「楽しくなかったら、スポーツじゃない」というクラブの信条



インタビュー

全国大会を目指して

永井 秀樹さん

永井さんが陸上を始めたのはいつですか？

2005年の中学生の時です。僕は軽度の知的障がいがあり、特別支援学級に在籍していました。そのとき学校の特別支援教育指導補助員で、日本障がい者スポーツ指導員でもある小山貴子先生が、たまたま僕の走りを見て、全国障害者スポーツ大会の合同練習に参加してはどうですか、と勧めてくださったのがきっかけです。

中学校の時のことをもう少し教えてください

僕は吹奏楽部に入っていました。小山先生に誘われてからも、陸上部に入らずに自分一人で練習をしていました。兵庫県の「のじぎくスポーツ大会」に出ることになり、小山先生が中学校の陸上部の先生にお願いして、陸上部の友達と一緒に練習したり、帰宅後、家の前の坂道とか近くのグラウンドで父と一緒に練習したりして、県の大会では100mで1位になりました。しかし、タイムが及ばず、全国障害者スポーツ大会には出場できませんでした。

高校生で全国大会に出場されたのですね

県立高等特別支援学校に入学し、自分から陸上部に入りました。指導して下さる先生方や仲間たちと一緒に練習をがんばりました。2006年は、兵庫県で全国障害者スポーツ大会がありましたが、予選の当日は発熱のため3位で出場できませんでした。2008年の高3の時、初めて大分県の全国障害者スポーツ大会に200mで出場することができました。開会式で兵庫の選手団の旗手として行進し、他県の選手と走ることができてうれしかったです。

社会人になってもずっと陸上を続けておられるのですね

市内の障がい者陸上クラブに入って練習しました。2011年には山口県、2013年には東京の全国障害者スポーツ大会に、どちらも50mで出場しました。リレーで走ったこともあります。それから毎年のようにのじぎくスポーツ大会に出場しています。短距離では、若い選手がたくさん出てきてとてもかかいませんが、中距離に転向して今は800mでがんばっています。

陸上の練習はつらくないですか

もちろんつらい時もありますが、走るのは得意なので、とても楽しいです。現在も週4日ぐらいのペースで、仕事が終わってから1時間30分ほど練習しています。おかげで、規則正しい生活を送ることができています。



2008年全国障害者スポーツ大会おいた大会で旗手を務める永井さん

お二人のアスリートからお話を伺って、夢や目標に向かって挑戦されている姿勢に勇気と元気をいただきました。(編集部)



日	曜	催し・講座など	日	曜	催し・講座など
1	火	経営・職業相談 10:00～ 国際高齢者デー	17	木	人権相談 13:00～ (三木市役所) 手芸サークル 13:30～ 貧困撲滅のための国際デー
2	水		18	金	経営・職業相談 10:00～ 人権フォーラム 18:30～
3	木	犯罪被害者支援の日	19	土	書を楽しむきらきら教室 13:00～
4	金	経営・職業相談 10:00～ 人権相談 13:00～ (緑が丘町公民館) 里親デー	20	日	
5	土	館外研修 8:30～ 茶道教室9:00～	21	月	
6	日		22	火	経営・職業相談 10:00～ 人権フォーラム 18:30～
7	月		23	水	茶道教室 13:00～
8	火		24	木	国連デー 手芸サークル 13:30～
9	水		25	金	経営・職業相談 10:00～
10	木	人権相談 13:00～ (吉川支所) 手芸サークル 13:30～ 世界メンタルヘルスデー	26	土	インターセックス啓発デー 
11	金	経営・職業相談 10:00～ カミングアウトデー	27	日	
12	土	茶道教室 13:00～	28	月	エアロビクス講座 10:00～11:00
13	日		29	火	経営・職業相談 10:00～
14	月	スポーツの日	30	水	
15	火	経営・職業相談 10:00～ 人権フォーラム 18:30～	31	木	
16	水				

人権フォーラム～わたしのひとこと～

10月15日(火)・18日(金)・22日(火)
18:30～19:45

会場 15日、22日は総合隣保館 18日は吉川町公民館

内容 作文朗読と意見発表

【発表者(敬称略)】

- 15日《作文朗読》・井上煌琥「ぼくの兄ちゃん」
・宮崎綾美「子どもと親の向き合い方」
《意見発表》・平田平良 ヴィニシウス「日本が自分を変えたこと」
・岩谷真由子「『つなぐ』ことで どの家庭も幸せに」
- 18日《作文朗読》・アチャリヤ ウパマ「外国人だから…」
《意見発表》・池田博文「主夫をして気づいたこと」
・倉田優子「卵を取る為のニワトリについて」
・戸田昌樹「あと1回休んだら留年です」
- 22日《作文朗読》・鎌田健次「人とちがうことはおもしろい」
《意見発表》・ブービエン ブンナリー「日本とラオスの違い」
・藤原美和「つながる・つながっていく」
・浦崎秀一「何歳になっても自分らしくいきいきと暮らしていこう」



このフォーラムは、いろいろな人権問題について身近な方から発表していただくことにより、人権について認識を深め合うものです。お誘いあわせの上多数ご参加ください



人権啓発紙「隣保館だより」10月号
令和6年10月1日発行(毎月1日発行)
三木市市民生活部 人権推進課編集
〒673-0501 三木市志染町吉田 823
三木市立総合隣保館 TEL 0794-82-8388
FAX 82-8658 E-mail:jinken@city.miki.lg.jp